

高松市美術館 コレクション展

—戦後美術の9作家—

The Collection of Takamatsu City Museum of Art

— 9 Japanese Artists After the War —

Takamatsu City Museum of Art 高松市美術館

〒760-0027 香川県高松市紺屋町10-4 Tel. 087-823-1711

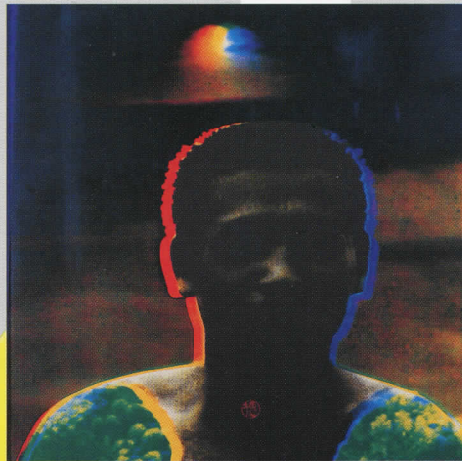
- 開館 午前9時—午後5時(入室は午後4時30分まで) 金曜日は午後7時まで開館(入室は午後6時30分まで) 月曜日休館
- 主催 高松市美術館
- 入場料 一般400円 高大生200円 小中生100円 ◎前売券および団体20名様以上は2割引
◎65歳以上の高齢者(長寿手帳等が必要) 身体障害者手帳・療育手帳または精神障害者保健福祉手帳所持者は無料

2000

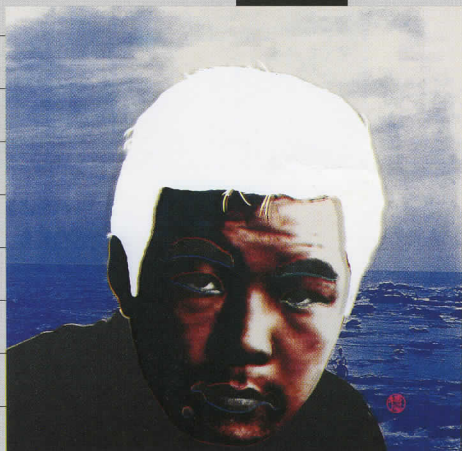
1/28 FRI



2/6 SUN



- 加納 光於 KANO, Mitsuo
- 斎藤 義重 SAITO, Yoshishige
- 高松 次郎 TAKAMATSU, Jiro
- 中西 夏之 NAKANISHI, Natsuyuki
- 福田 美蘭 FUKUDA, Miran
- 森村 泰昌 MORIMURA, Yasumasa
- 山中 信夫 YAMANAKA, Nobuo
- 横尾 忠則 YOKOO, Tadanori
- 吉原 治良 YOSHIHARA, Jiro





吉原 治良 [紺地に青い円] 1971



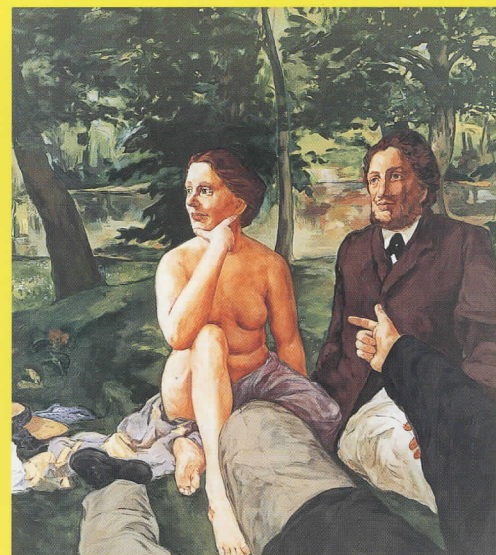
中西 夏之 [山頂の石鏡り No.1] 1969



森村 泰昌 [肖像(ヴァン・ゴッホ)] 1985



加納 光於 [稲妻捕り PF-3] 1977



福田 美蘭 [帽子を被った男性から見た草上の二人] 1992

高松市美術館では、1988年に開館して以来、第二次大戦後の日本の「現代美術」を収集方針のひとつとして積極的にコレクションを行っています。また、特に注目すべき美術家については、主要な作品をある程度そろえ、なるべくその制作活動の流れを追えるように努めてきました。今回のコレクション展では、そのような美術家の中から9名を選び、基本的に1作家1コーナーというかたちで、彼らの興味深い作品を紹介いたします。

戦前より活動を始め現代美術のパイオニアであり続けている斎藤義重、戦後美術に大きな足跡を残した「具体」グループのリーダーであった吉原治良、独特の技法で色彩や光そのものを捕らえようとする加納光於、「現代美術」の範疇を越えるような

作品を描く横尾忠則、「絵」についての独自の思索をめぐらす中西夏之、「影」を描いた作品などで視覚の制度性を追求した高松次郎、ピンホール写真を使って世界を定着させようとした山中信夫、自らの作品に美術史の人物や女優に扮して登場する森村泰昌、美術や社会の盲点を軽快に表現する福田美蘭。

作品へのアプローチや社会に対するスタンスは異なりますが、これらの多様な表現の数々が戦後の「現代美術」という風景を形づくってきました。20世紀も終わろうとしている今日、大規模な社会変化が世界的にも続いています。そのような状況の中であって、私たちが生きた時代の美術とはどういうものだったのか、ここであらためてふり返ってみたいと思います。

ギャラリートーク

当館学芸員による展示作品の解説

1月29日(土)、2月5日(土)
午後2時～
2階展示室にて

美術館ボランティアによる展示作品の解説

1月30日(日)、2月6日(日)
午前11時～/午後2時～
2階展示室にて

次回展覧会のお知らせ

パリのカフェと画家たち展

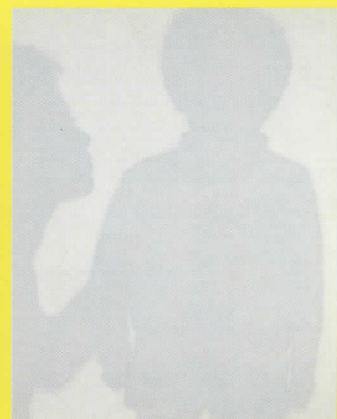
2月25日(金)～3月26日(日)

交通案内

JR 四国—JR高松駅下車、南へ徒歩15分
琴平電鉄—瓦町駅・片原町駅下車、徒歩10分
バス路線—紺屋町バス停下車、徒歩3分
駐 車 場—美術館地下に公営駐車場
(有料、乗用車144台収容)



山中 信夫 [東京の太陽] 1980-81



高松 次郎 [影 No.294] 1970



斎藤 義重 [ハンガー] 1967